

私達の決意

～私達は何かあっても障害をお持ちの方々を支援し続けます～

7月26日未明に神奈川県相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で、元職員の男性によって入所者19人が殺害され、26人が重軽傷を負うという痛ましい事件が起きました。無念の思いで亡くなった方や一命は取り止めたものの恐怖におびえ続けている方々のことを思うと、胸が張り裂けるような思いです。本来は利用者の命と健康、生活を守るべき職員であった者の犯行に同じ障害者を支援する者として強い憤りを感じます。同時に殺害予告を知りながら未然に防ぎきれなかったことが残念でなりません。心よりご冥福をお祈りし、お見舞い申し上げます。

多くの人命を奪った戦後最悪の残忍な殺人事件ですが、さらに大きな衝撃を与えているのは、障害者の命や人権を真っ向から否定し続けるような言動を繰り返していたことが明らかになったことです。2月半ばには衆議院議長公邸に事件を予告する手紙を持参していました。このような考えは障害者を「厄介者」とみなす優生思想に通じるものです。障害者の命と尊厳、存在をこれほどあからさまに否定する考えは、到底許すことはできません。

多くの人が事件をきっかけに、偏った能力主義や効率主義、格差や貧困などの拡大に伴い、障害者をはじめ社会的弱者や少数者などに対する偏見や差別、排除の社会的風潮が強まる中で起きたのではないかと不安と危惧を募らせています。

どんな人でも一人では生きていけません。いろいろな支えがあって初めて生きていけるのです。支援の内容や程度に違いがあったとしても「支えが必要」という点ではすべての人で同じです。

障害者は決して社会から支援を受けるばかりではありません。障害者の方をお世話することに生きがいや働きがいを感じ、癒されたり、励まされたり、学ばされたりしている人がたくさんいます。障害を持っている当事者を中心に家族がまとまり、充実した生活を送っている家庭もたくさんあります。障害者の方を支援することによって、自分が必要とされていることを知り、人の役に立てる喜びを感じ、生きがいを持てるようになった人もたくさんいます。そういう意味では大きな「能力」を持っているのです。「物」の生産より「心」を創り出す能力にたけた人たちなのです。障害者の方がいるから社会福祉が進み、新たな雇用も創出され、多くの方がその恩恵にあずかっています。どんな障害をお持ちの方でも立派に社会に貢献されていることをもっと知る必要があります。

私達は個人の尊厳という価値観を共有し、その土台の上に多様性を認め合う社会を実現していかなければなりません。障害のある人もない人も、相互に人格と個性、多様な生き方を認め合い、学び合い、支え合わなければなりません。多様な人がいてこそ、生きることができ、文化を享受することができるのです。多様性は豊かさの必須条件です。

私達は今後も障害者の方々の支援をご本人、家族、支援者の皆さまと協力、連携しながら進めて行く決意です。そして、差別や偏見のない理想の社会を追い求め、共に幸せに暮らせるよう奮闘し続けます。

私達の夢

◇私達には夢がある

障害者が、健常者と同じように暮らせる日が来る、という夢である

障害者が、「障害者」と呼ばれない日が来る、という夢である

◇私達には夢がある

すべての人が、差別のない自由で平等な社会で暮らせる、という夢である

すべての人が、互いに尊重し協力し合える日が来る、という夢である

すべての人が、飢餓のない安心な社会で暮らせる、という夢である

すべての人が、貧困のない幸福な社会で暮らせる、という夢である

すべての人が、戦争のない平和な社会で暮らせる、という夢である

◇私達には夢がある

人類が、地球環境を守り、自然と調和ある共存を続ける、という夢である

人類が、過去の遺産を引き継ぎ、未来に伝え続ける、という夢である

◇私達には夢がある

人類は、夢をいつか実現できる、という夢である

2016年8月1日

東京小児療育病院